



岩木山からは日本海を見晴るかす

紅葉を求めて

2020年10月1日～7日

芦田典子

コロナが下火傾向にあった昨年の秋紅葉を求めて、ともの会有志で東北登山に出かけた。14名7日間の山旅だ。マイクロバスで1日の夜、可児を出発。2日昼前に青森岩木山の麓に到着。その足で日本海まで見渡せる岩木山登山。3日は八甲田山へ。下・上毛無岱までは天気も良かったが、その後は崩れ八甲田山登山は断念。4日は弘前城、ねぶた会館と奥入瀬渓谷散策。



上毛無岱(八甲田山)デッキにて紅葉を楽しむ

5日は草紅葉と沼のコラボレーションの八幡平。6日は焼け走りルートから岩手山登山。頂上付近は強風と氷の世界だ。7日は麓から中腹までの紅葉と山頂付近の岩山の荒々しさの競演の那須岳に登り、可児へ帰った。

毎日麓のホテルや旅館に泊り、登山としては「日帰り登山」形式だ。毎日お風呂に入れ、食事や酒も楽しむ最高の登山であった。

一斉パトロール活動

1月13日(水)9時～

パトロールグループ 古田圭史

今年初めての一斉パトロールボランティア活動。参加者は16名。密を避けるため真禅寺・西山・石原の3ルートから登山休憩舎集合とした。

特に指摘する点はない。但し、登山道に設置されている擬木階段部分(各ルートに結構ある)の縦の擬木が浮いて飛び出している。この擬木にたまたま転倒することが考えられるので、階段面と縦の擬木面が同面になるよう補修した方がよい。今後の環境保全作業等で検討していただきたい。



縦の擬木が出ている様子

八木三山登山

1月20日(水)

登山グループ 佐藤正行

この日は無風・快晴の登山日和となった。鶯沼宿駅近くのイオンタウン駐車場に集合、参加者は、女性5名、男性3名だ。



愛宕山の山頂から遠く伊吹山を望む

つつじが丘団地給水タンク近くの東登山口から登山始める。落葉広葉樹林の気持ちの良い登山道だ。岩場の急登を登る事30分、頂上からは恵那山、木曽駒、御嶽山の展望が待っていた。

水分補給をして双子山に向かう岩場を慎重に降り、鞍部から双子山の頂上、愛宕山に向かう鞍部までは落ち葉の道が快適だ。愛宕山も急登の岩場を切り切れば岩場の頂上。名古屋のビル群、鈴鹿の山、雪の伊吹山、白山、御嶽山の大展望を堪能しつつ昼食を楽しんだ後は八木山に戻り山行を終えた。

山座川の清掃作業

2月25日(木)9時～

環境保全グループ 吉田博行

厳しい冷え込みの朝だったが、16名の会員が参加。密にならない様お互いに距離を取り、滑る川底にも注意しながらゴミを集める班と、2本の太い流木をチェーンソーを使って、処理する班に分かれての作業となった。

チェーンソーを使う班は、講習を受けて資格はあるが、切断した経験が少ない人の実習も兼ねた作業となった。年に1回の清掃活動ではあるが、年々ゴミの量は減っているように思われる。11時には、作業を終えることができた。



ゴミがなくなる日を願って

3月植物観察会

3月6日(土) 9時~12時

自然保護グループ 笹崎三雄

今年第1回の観察会は、暖かい陽気の下、一般参加1名を含む11人で賑やかな観察会となった。

あぜ道コースでは身近な早春の野草オオイヌノフグリのコバルトブルーの花が多数見られて好評だった。城山コースでは春を告げる紫色のショウジョウバカマや赤いヤブツバキが見頃であった。木曽川コースでは咲きだしたカタクリの花(今年の開花第1号)や独特の春の匂いを放つヒサカキの花を観察した。



ショウジョウバカマ(城山コース)



ヒサカキ(木曽川コース)

鳩吹山と周辺の植物調査

(笹崎三雄さん)

会員の笹崎氏が2013年から「鳩吹山と周辺の植物調査」を行って、調査報告書を毎年作成されている。

鳩吹山と周辺にはカタクリやニリンソウ、シデコブシ等の貴重な植物が自生している。これらの自生地を含む登山道や遊歩道で通年植物調査(野草と樹木)を行っている。調査地域は、①山コース(鳩吹山登山道)と、②里コース(鳩吹山周辺の平地)である。



毎年発行している報告書

たまみずきの会

吉田博行

鳩吹山ともの会の会員で、押花を使ったアート作りに興味のある有志16名で、平成31年2月に立ち上げた会。自宅の庭で育てた花や山野草、あるいは畑で育てた花などの植物を、百科辞典で重しをかけ、乾燥剤で乾燥させたものを色紙に貼り付け一枚の絵として作品を完成させる。



押し花アートの作品

このようなことを、2カ月に1回偶数月の第4火曜日に、土田地区センターでわいわいがやがやと楽しく活動している。

作った作品は市役所のロビー展や帷子地区センターのロビー展で展示する。まったくの自由の会で、都合が良いときに参加すれば良いし、たまには弁当持参で屋外に花の材料取りに行くなど、とにかく楽しい会だ。今は、コロナ禍の影響で活動ができない状況だ。コロナが終息し、また活動が再開できることを願っている。

『詩がめぐる山旅』を出版

(浅野牧子さん)

鳩吹山ともの会の会員である浅野牧子さんが登山エッセー『詩がめぐる山旅』を自費出版され、2021年1月29日付岐阜新聞に掲載された。

浅野さんは30代半ばから、詩作やエッセー等の文筆活動が続けられてのこと。今回のエッセーは5冊目の発刊で、趣味の登山で巡った低山や、3000m級の山岳まで約100箇所山の随筆に自作の詩を付けたもの。エッセーに添えられた一篇の詩をご紹介します。

わたしの気持ちが沈んでしまったとき
あなたを歩いて
わたしはわたしを取り戻す



出版された『詩がめぐる山旅』

『明日に向かって』

洞田智子

この作品で、2020年第39回児市美術展の洋画部門で「議長賞」をいただいた。

作品を描き進めるなか、コロナの影響が想像以上にひどくなり、なんとか終息していかないと願い、表現してみた。



明日に向かって

これからの活動予定一覧

【環境保全 G 吉田博行】

- 毎月第4木曜：真禅寺 P / 9時集合
- ・4月22日(木)・5月27日(木)

【登山 G 山田栄雄】

- 4月21日(水) 帷子地区センター P / 6時
- ・金勝アルプス竜王山 滋賀県栗東市
- 5月19日(水) 帷子地区センター P / 6時
- ・青葉山 福井県高浜町

【パトロール G 古田圭子】

- 毎月第2水曜：真禅寺 P / 9時集合
- ・4月14日(水)・5月12日(水)

【自然保護 G 笹崎三雄】

- 毎月第1土曜：カタクリ P / 9時集合
- ・4月3日(土)・5月1日(土)

【地域支援 G 柿元章吾】

以下、5月の予定(詳細は未定です)

- 土田小自然学習支援
- 土田小登山支援
- 帷子小登山支援

【事務局・その他】

- 連絡会：土田地区センター / 9時半集合
- ・4月1日(木) / 5月6日(木)
- 4月の総会は「書面表決」方式とします

【鳩吹山ともの会 連絡先】

代表 高島 勝

■■■■■(自宅) / ■■■■■(携帯)

新型コロナウイルスの感染状況により活動予定が中止・延期になる場合があります。